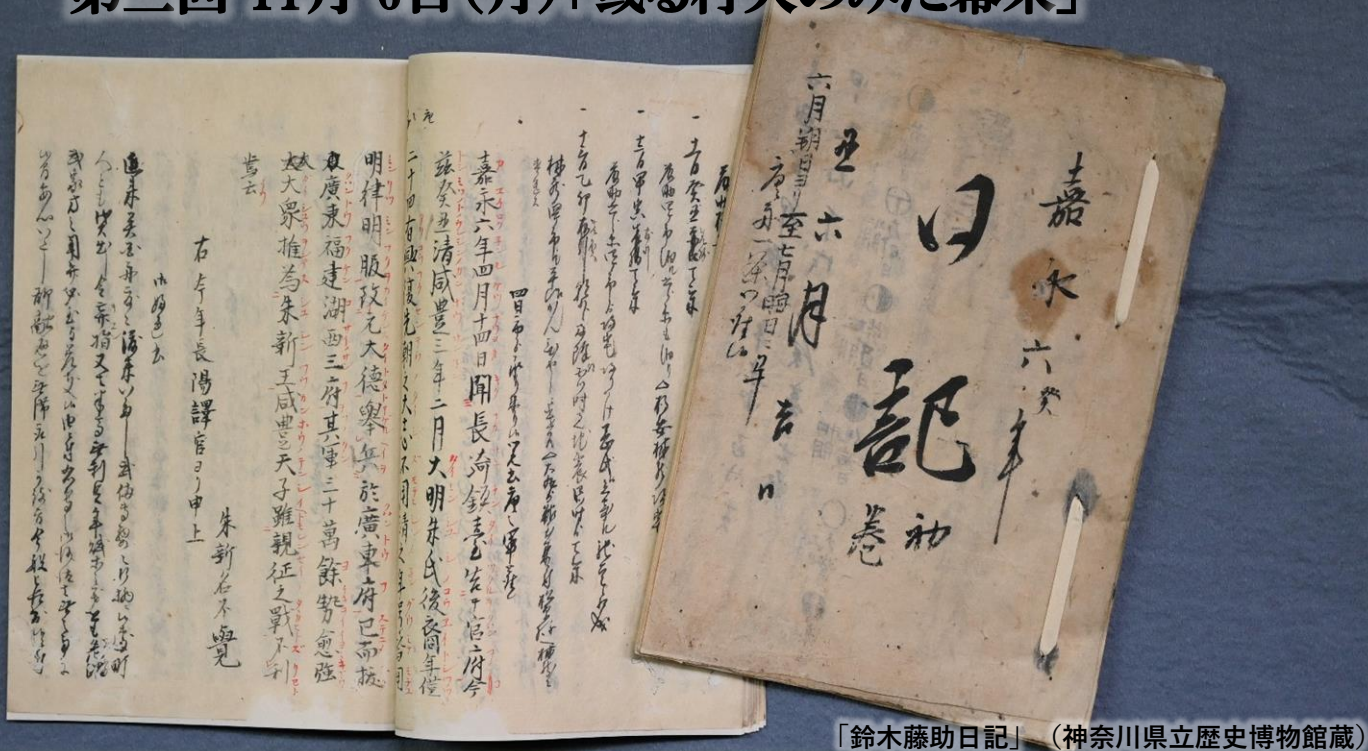


# 江戸幕末期の日記を読む (全三回)

講師 神奈川県立歴史博物館 学芸員 寺西明子さん

幕末に書かれた日記を題材に、くずし字を読み解きながら  
当時の人々の生活や考えを紐解きます。

- 第一回 10月23日(月)「日記からみる幕末の世相」
- 第二回 10月30日(月)「地方武士のみた幕末」
- 第三回 11月6日(月)「或る村人のみた幕末」



「鈴木藤助日記」(神奈川県立歴史博物館蔵)

日時：10月23日、10月30日、11月6日 すべて月曜日 10時30分～12時30分  
会場：大和市文化創造拠点シリウス 6階 生涯学習センター 601講習室  
定員：30名(先着)  
対象：18歳以上の大和市内在住・在勤の方(高校生を除く)  
参加費：各回1,000円(3回通して申し込むと2,500円)  
申込：9月16日(土)10時から受付開始  
お電話または6階生涯学習センター窓口へ

市外の方はお席に空きがある場合、9/22(金)10時から  
お申込みいただけます。

右のQR、お電話または6階生涯学習センター窓口へ

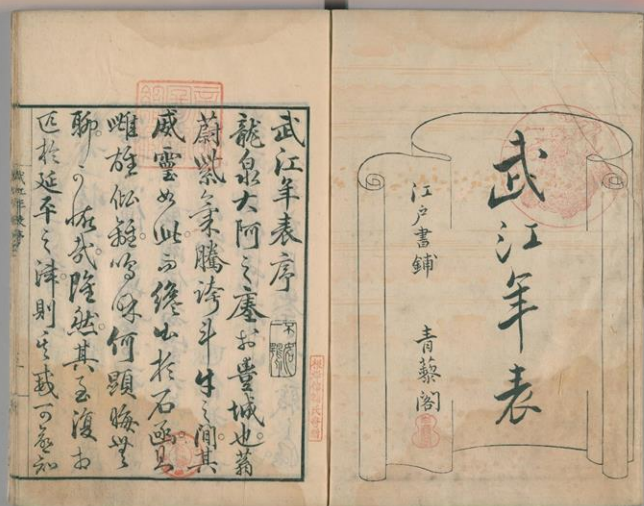


お申込・お問合せ 046-261-0491

みなさんは日記をつけていますか？日記にはどんなことを書いているのでしょうか？

多種多様な形態の記録が残されるようになった江戸時代。書かれた日記には、個人によって書かれたものだけでなく、親から子へと書き手が変わっても書き継がれたもの、年代記のように編纂されたものなどが存在します。

本講座ではペリーが浦賀に来航した嘉永6年（1853年）以降の幕末期に書き残された個人の日記・記録を資料にして、当時の世相や暮らしを読み解きます。扱う資料の主な書き手は地誌類の編集者でもあった江戸町人、地方から江戸にやってきた武士、神奈川県域のある農村に住んでいた村人の3名です。彼らが関心を持って書き残した幕末の出来事の記述からは、彼らが何を考え何を思ったのか、彼らがどんな性格の人物だったのかについても垣間見ることができます。



「武江年表」（国立国会図書館蔵）



「松平造酒助江戸在勤日記」（神奈川県立歴史博物館蔵）

### 【講師プロフィール】

寺西明子（てらにしあきこ）

神奈川県立歴史博物館学芸員

1985年神奈川県横浜市生まれ、2010年お茶の水女子大学大学院比較社会文学コース修士課程修了。2012年東村山ふるさと歴史館非常勤学芸員。2020年より現職。近世地方文書の整理を基軸に村落史等を研究。



※ 天候や交通機関の運行状況及びその他不可抗力により、開催が中止となる場合がございます。

※ 駐車場の数に限りがありますので公共の交通機関でお越しください。

アクセス

小田急江ノ島線、相鉄本線

大和駅から徒歩3分

YAMATOMIRAI イベント情報サイト OPEN!

やまとみらい7施設のイベント情報をご紹介します！

ジャンル別・施設別に検索できます。

